



ほたる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
 ~あなたの悩み事は当社までご相談下さい~
 【今月の一冊】 望む人生に組み替える「未来設定ノート」
 松浦ゆか 著 大和出版
 ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2022年12月1日 Vol. 242
 発行元 有限会社プライム・コーポレーション
 代表取締役 渡邊敏徳
 〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地
 TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

未来の自動車産業

今、日本の基幹産業である自動車業界は大きな変革期を迎えています。世界の主流はガソリン車から電気自動車へと移り始め、自動車の生産台数は2030年に向けて鈍化すると予想されます。人手不足や海外での販路拡大、環境に配慮した製品の開発といった将来に向けて解決すべき課題が山積しています。また、自動車を整備する自動車整備士つまり“メカニック”の在り方も変わりつつあり、自動車業界のCASEの進展により大きく変化してきています。

CASE はもともと、2016年に開催されたパリのモーターショーで、ドイツの自動車メーカーであるダイムラー社が発表したコンセプトでした。CASE とは、Connected(コネクティッド)、Autonomous/Automated(自動化)、Shared(シェアリング)、Electric(電動化)の頭文字をとって作られた造語で、今後の新しい車の開発の軸となる考え方を表現したものです。

高度化する技術に対応するための知識や技術習得などに加えて、メカニックだからこそ可能な説得力のある説明などユーザーに向けた対応もとても重要になっていきます。

ここ約10年前から比較して、自動車整備士養成校への入学者は半減しているそうです。また、新型コロナウイルスの影響で留学生の入学も減少し、新入生の確保が厳しくなっています。自動車産業を支える自動車整備士の仕事については、興味・関心を持ってもらう努力と待遇や職場環境の改善を行ってきているがとても厳しい状況にあります。

自動車販売ディーラーにおいて営業が一生懸命に車の販売をしても、メカニックがいなければディーラーの仕事は成り立たなくなってしまいます。自動車の技術が高度化に伴い、その自動車を点検・整備する優秀なメカニックが必要不可欠です。この日本の自動車業界の厳しい状況を早く改善していかなければ大変なことになってしまいます。私の仕事でもある損害保険も自動車保険として自動車業界に携わっています。この自動車業界はとてすそ野が広い業界です。自動車業界だけの問題と捉えるのではなく日本全体の問題として取り組んでいかなければならない問題です。資源のない日本ができることは技術力を磨きアイデアをフル



に活かして世界経済に貢献することです。そんな日がまた来ることを願ってやみません。活力のある日本を取り戻せるかは、ひとえに“政治”の力が大きなポイントだと感じています。第8波が蔓延し始めたコロナ禍ではありますが、来年は“笑顔”で暮らせる年にしたいものですね。

安全運転

車社会の現代において交通事故は他人事ではありません。2021年度中に起きた交通事故は305,196件で、死亡者は364,767人でした。私たちはこんなことを思っていないですか。「私は安全運転なので事故は起こさない」「事故に巻き込まれることはない」と…。そう思っているにもかかわらず突然目の前に起こってしまいます。秋から冬には暗くなる時間も早まり視界が気づらくなります。また、凍結によるスリップ事故などが起こる季節となります。年末年始などは特に気持ちがせわしくなり集中力が散漫にもなります。万が一自分が交通事故に遭遇した時の対応について考えておくことが大切だと思います。

予期せぬ事故を起こした直後は、誰もが頭の中が真っ白になりパニック状態に陥ります。まずは一呼吸おき冷静になって周囲の状況を客観的に把握し、正しい判断と落ち着いた行動が求められます。特にケガ人がいた場合には、真っ先に救護を優先します。被害者の救護をせずにそのまま立ち去ると、ひき逃げ(救護措置義務違反)事件となります(道交法72条)。

続いて2次災害の防止、警察等への連絡、お互いの連絡先の確認や事故状況を記録します。最近ではドライブレコーダーを搭載している車も多いので、事故時の映像をしっかりと保存しましょう。

本年も“ほたる”をお読みいただきありがとうございました。穏やかな年末年始でありますよう心からお祈り申し上げます。



【座右の銘にしたい名言】



最も重要な決定とは、何をするかではなく、何をしないかを定めることだ。

(スティーブ・ジョブズ / 米国の実業家・アップル創業者)

◇ 年末年始の営業 令和4年12月30日～令和5年1月4日までお休みとなります。